

A person in a dark coat is seen from behind, holding a black umbrella and looking at a large, colorful artwork on a canvas in a forest. The scene is bathed in a blue light, with tall trees and dense foliage in the background.

蓮の葉っぱ
持って雨の
中走って
あの子は今?

第22回
千葉市芸術文化新人賞受賞記念

雨夜来 個展

会期 2025年2月28日(金)～3月2日(日)
会場 千葉市文化センター 市民サロン(5F)
主催 公益財団法人千葉市文化振興財団
共催 千葉市
後援 千葉市教育委員会

蓮の葉っぱ持って 雨の中走ってた あの子は今？



第22回千葉市芸術文化新人賞受賞記念

雨夜来 個展

あま よ らい



雨夜来

会期 2025年2月28日(金)～3月2日(日)
10:00～18:00 ※最終日は16:00まで
会場 千葉市文化センター 市民サロン(5F)
千葉市中央区中央2-5-1 ※入場無料
主催 公益財団法人千葉市文化振興財団
共催 千葉市
後援 千葉市教育委員会

中国にはこんな言い伝えが残っている。「4000年前、一人の子どもが頭上に蓮の葉っぱを掲げて嵐のなかを走って行った。これがのちの傘となった。」

雨夜来の作品に幾度となく登場する傘。雨夜来のことばを借りれば、「我々は傘の翼を持って生まれた」。まさに天上界と下界を隔てるもの、傘は身を守る盾であり、内界と外界を繋ぐ境界線でもある。

我々の人生には絶え間ない雨が降っている。傘を持って生まれた我々を天はどこへ導くのだろうか？

雨夜来はずっと人間という存在そのものに疑問を抱いていた。己の中にある動物性と人間性。どっちが本物なのか。我々の正体は動物なのか人間なのか。人間という宿命を背負い、その存在意義を問いかける。

Human in Animalという一貫したテーマのもと8年間制作を続けた雨夜来は、24歳という若さで千葉市が主催する第22回千葉市芸術文化新人賞を受賞した。本展ではその受賞記念展として雨夜来の個展を開催する。「傘」の伝承をモチーフとしたHuman in Animalの世界をお届けする。